



景気動向指数の見方と 利用の方法

神奈川県統計センター 企画分析課

- この資料では、景気動向指数の見方と利用の方法について説明します。



内容

- 景気とは何か？
- 景気動向指数について
 - ⇒採用系列
 - ⇒C I とD I
 - ⇒景気基準日付
 - ⇒季節調整

○はじめに、景気とは何かについて説明します。

次に、景気動向指数について、大きく4つの内容(採用系列、CIとDI、景気基準日付、季節調整)に分けて説明します。

景気ってなに？

- 景気とは
→世の中に活気があるかどうか。経済活動の動向。
- 景気が良ければ…
→ものの売り買いがたくさん行われお金の動きが活発に。
- 景気が悪いと…
→ものの売り買いが消極的になりお金の動きが悪くなる。

○新聞やニュースで、景気が悪化したなどという記事を見たことがある人は多いと思います。

しかし、この「景気」という言葉はどういう意味でしょうか。

○辞書を引いてみると「売買・取引などの経済活動の状況」とあります。

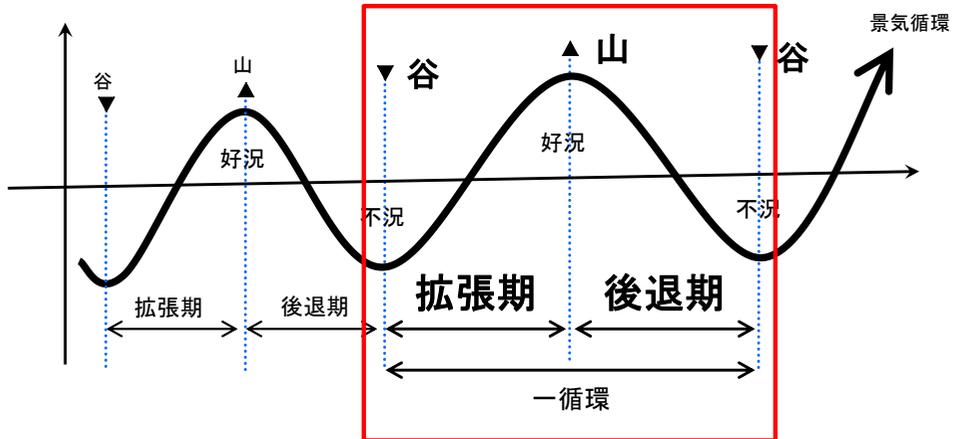
簡単に言うと「世の中に活気があるかどうか」です。

○景気が良いときには、ものの売り買いがたくさん行われ、お金の動きが活発になり

、
反対に、景気が悪い時には、ものの売り買いが消極的になり、お金の動きが悪くなります。

景気 = 経済活動の動向

- 景気は良いときと悪いときを繰り返している
- 景気動向指数では、景気を「拡張期」と「後退期」の2つに分けて把握する



○ 景気について詳しく見ていきます。

経済活動には、活発なときと停滞するときがあり、図のように、景気は良いときと悪いときを数年単位で繰り返しています。

これを「景気循環」や「景気変動」と呼びます。

○ 景気循環は、谷から始まり山、そして谷で終わります。これを一つの循環、一循環としています。

この循環はナンバリングされており、現在は第16循環となります。

○ 景気動向指数では、この一つの循環を景気が一番悪い時である「景気の谷」から景気が一番良いときである「景気の山」までを景気の拡張期、「山」から「谷」までを景気の後退期と、2つに分けて把握します。

景気動向指数の概要

- 生産、雇用など代表的な経済指標の動きを統合
- 景気の現状把握や将来予測に役立つ
- 20本の経済指標（採用系列）から算出
- CIとDIの2種類
 - それぞれに先行・一致・遅行指数がある
- 毎月公表
 - 神奈川県は、毎月月末に2か月前分を公表
 - 県民経済計算に比べて速報性がある

（少ない系列で概要をつかむことができる）

○景気動向指数は、生産、雇用など様々な経済活動での重要かつ景気に敏感な経済指標の動きを統合することによって、景気の現状把握および将来予測に資するために作成された統計です。

○神奈川県では20本の経済指標を用いて景気動向指数を算出しており、この20本の経済指標を採用系列と呼んでいます。

○なお、景気動向指数は多くの経済指標を一つにまとめた、単一の指標によって景気を把握しようとするものであり、すべての経済指標を総合的に見て景気を捉えようとするものではないことに注意が必要です。

○景気動向指数には、CIとDIの2種類あり、それぞれに先行、一致、遅行の3本の指数があります。

景気の現状把握という観点では主に一致指数が利用されます。なお、全国版のCIとDIは内閣府で作成・公表していますが、神奈川県では作成方法は内閣府に準拠しながら、採用系列は独自のものを選定しています。

○神奈川県では毎月月末に、2か月前分の景気動向指数を作成・公表しています。

○県民経済計算等に比べて、景気動向指数は速報性があるという特徴があります。県民経済計算は、経済活動を総合的に把握することができますが、公表するまで1年半近くかかります。

一方、景気動向指数は「代表的な月次統計」で作成しますので、2か月後に公表することが可能となっており、県民経済計算等と比べ早めに景気を把握することができます。

| | | |
|--|------------------------|------------------------------|
| <p>先行系列 (7本) ↓ CI先行指数、DI先行 指数を算出</p> | 県最終需要財在庫率指数 (逆サイクル) | <p>CI,DIの採用系列は共通!</p> |
| | 県生産財在庫率指数 (逆サイクル) | |
| | 県新規求人数 (除く学卒) | |
| | 県乗用車新車新規登録・届出台数 | |
| | 消費者態度指数 (関東) | |
| | 県企業倒産件数 (逆サイクル) | |
| | 日経商品指数 (42種) | |
| <p>一致系列 (7本) ↓ CI一致指数、DI一致 指数を算出</p> | 県生産指数 (製造工業) | <p>CI,DIの採用系列は共通!</p> |
| | 県業況判断DI | |
| | 県投資財出荷指数 | |
| | 県耐久消費財出荷指数 | |
| | 県雇用保険初回受給者数 (逆サイクル) | |
| | 県所定外労働時間指数 (調査産業計) | |
| | 横浜港等輸出入通関実績 | |
| <p>遅行系列 (6本) ↓ CI遅行指数、DI遅行 指数を算出</p> | 県在庫指数 (製造工業) | <p>CI,DIの採用系列は共通!</p> |
| | 県普通営業倉庫保管残高 | |
| | 県常用雇用指数 (調査産業計) | |
| | 県有効求職者数 (除く学卒) (逆サイクル) | |
| | 家計消費支出 (関東地方) | |
| | 消費者物価指数 (横浜市・除く生鮮食品) | |

○採用系列は当県が景気動向指数を作成するために独自に選定した、先行系列7本、一致系列7本、遅行系列6本、合計20本の系列から構成されます。

○先行系列は新規求人数など景気の動きより先に反応して動く系列を採用しています。

一致系列は景気の動きと同じような動きをする系列を、遅行系列は景気の動きに遅れて動く系列を採用しており、CIとDIは共通の採用系列を用いて算出しています。

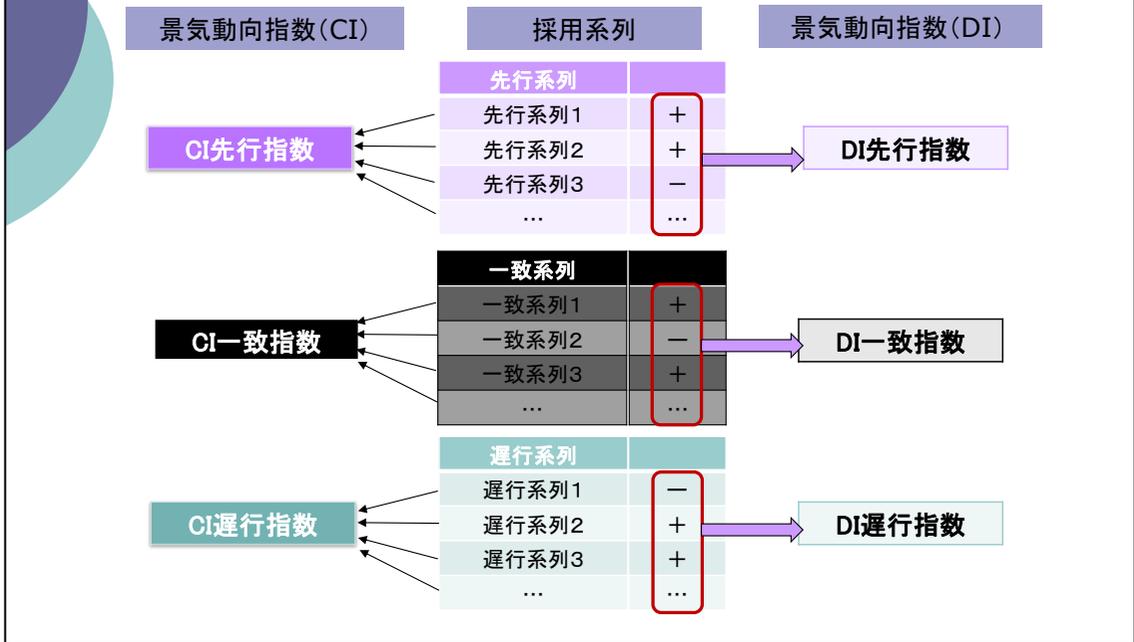
○この採用系列は、神奈川県景気循環への対応性を考えながら選定していますが、時間の経過や経済構造の変化により、経済の動きにうまく反応しなくなることがあります。

そのため、景気が、谷⇒山⇒谷と一循環した時点で採用系列が現在の景気の動きとマッチしているか点検を行っています。

○神奈川県の採用系列のうち、先行系列の県最終需要財在庫率指数、県生産財在庫率指数、一致系列の県生産指数、県投資財出荷指数、県耐久消費財出荷指数、遅行系列の県在庫指数、これらはすべて神奈川県工業生産指数から採用している指標となっています。

○神奈川県は、工業、ものづくりが盛んであるため、神奈川県景気動向指数では工業生産指数からの採用指標が多いという点が特徴となっています。

採用系列とCI,DIの関係 (イメージ)

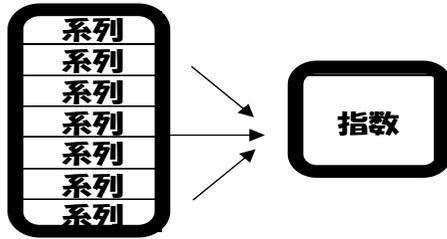


○この図は、これまで説明した内容をまとめたものです。先ほど説明したように、採用系列はCI、DIともに共通です。

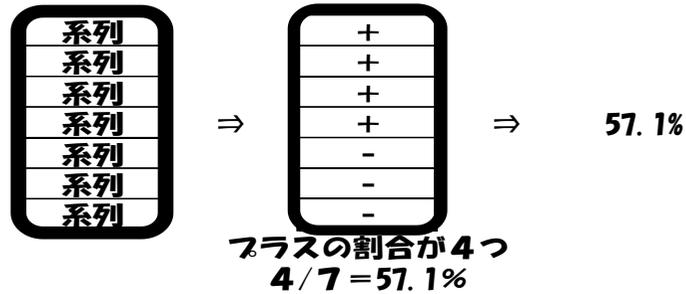
各採用系列の動きを統合したものがCIとなり、各採用系列のプラスの割合を求めたのがDIです。

CIとDIのイメージ

CI



DI



○こちらは、CIとDIのイメージを図にしたものです。

CIは各系列を統合して作成した指数です。例として、系列が7本あるとして、この7本の系列を1つにまとめたものがCIです。

○一方、DIは一つ一つの系列が3か月前と比べてプラスかマイナスかを判断します。

そして、7本それぞれの系列がどれだけプラスだったか。この割合で指数を求めます。

神奈川県版C I（コンポジット・インデックス）

- 神奈川県版C I
- 採用系列の前月からの変化量を合成し、平成27年を100とした指数。
- 前月差・・・景気変動の大きさ、勢いを示す
- 移動平均・・・・・・・・基調的な動き
- 寄与度・・・各採用系列の変化が、前月差にどのくらい影響しているか
 - 各採用系列の寄与度の合計がC Iの前月差に一致

○ここでは、神奈川県版C Iについて説明します。神奈川県版C Iとは、神奈川県版C Iです。C Iとはコンポジット・インデックスを指します。

C Iは、採用系列の動き、変化量を合成したもので、景気変動の大きさやテンポ、つまり『量感』を測定することを目的としています。

○C Iでは前月差が景気の量感を示しており、C Iが前月より上昇している場合は景気の拡張局面、C Iが前月より下降している場合は後退局面といわれます。

○また、移動平均については、景気動向指数では後方移動平均を用います。

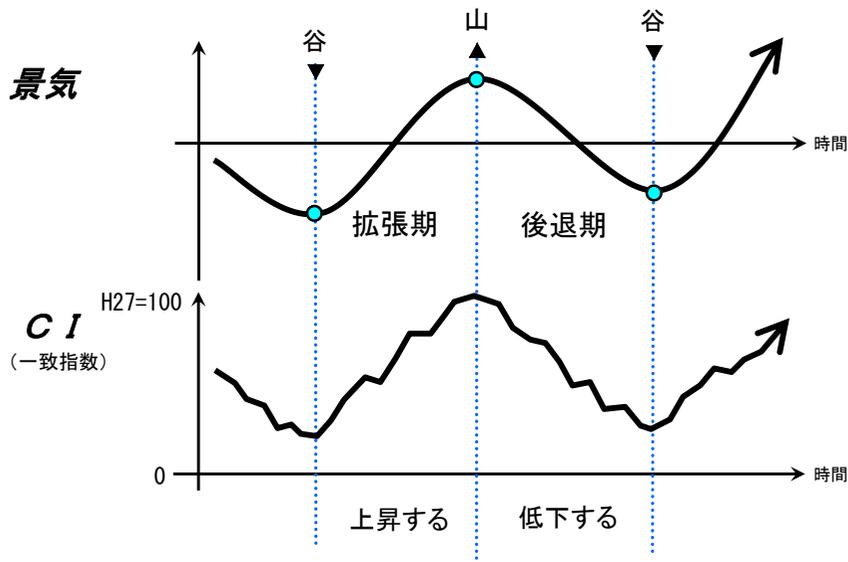
○後方移動平均とは、今月の値と過去、後方へ向かって平均値を出すことを指します。

○C Iは各系列を統合して作成した指数なので、一つの系列が大きく動くことによって、景気の拡張局面においても単月では低下するなど、不規則な動きも含まれているので、指数の月々の動きをならした平均値をとることで指数の基調的な動きをみています。

○毎月公表している景気動向指数月報(速報)では、足下の基調の変化をつかみやすい「3か月後方移動平均」と、足下の基調の変化が定着しつつあることを確認する「7か月後方移動平均」を併せて掲載しています。

○最後に、寄与度とはそれぞれの採用系列の前月からの変化が、データ全体・指数の値にどれくらい影響したかを示すものです。

C I と景気循環との比較 (イメージ)



○こちらはCIと景気の動きとを比較したイメージ図です。

○一般的に、CI一致指数が上昇している時は景気の拡張期で、低下している時は後退期であり、CI一致指数の動きと景気の山・谷は概ね一致していることが分かります。

K D I (Kanagawa Diffusion Index)

- 神奈川県版D I
- 採用系列の数値を3か月前と比較
 - 改善 (+)、悪化 (-)、変化がない (0)
- 改善した指標 (+) の割合がD I
 - 判断基準は50%を上回るか、下回るか
- 景気各経済部門への波及度合いを測定

○ここではKDIについて説明します。

KDIは神奈川県版DIのことです。DIはディフュージョン・インデックスの略です。ディフュージョンは浸透・波及度合いを表します。

○DIは各採用系列の数値を、それぞれ3か月前と比較して、改善したときはプラス、悪化したときはマイナス、変化がない場合はゼロとして、改善したプラスの系列の数の割合を求めます。

この割合がDIの値となり、判断基準は50%を上回るか、下回るかです。

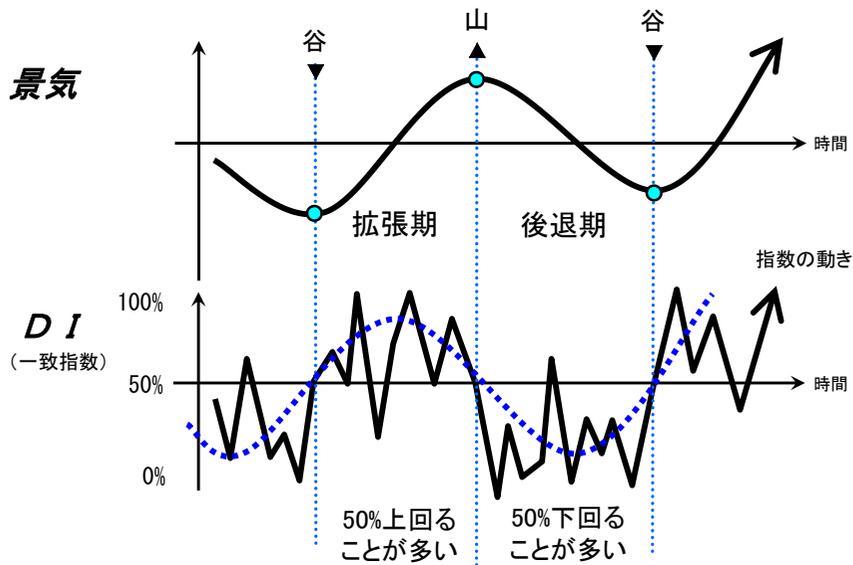
○統計指標の多くは毎月不規則に増減を繰り返しながら、基調としては増加又は減少といった動きを示します。

このような不規則な動きの影響を緩和させるために前月との比較ではなく、3か月前の数値と比べています。

○先ほど説明したとおり、このDIは、景気変動の強さや水準を示すものではなく、景気各経済部門への波及度合いを測定しようとするものです。(このため経済活動の中で感じられる実感とは異なることがあります。)

つまり、DIは景気の良さが経済活動の多くの分野に浸透していったかを測定するためのものです。

D I と景気循環との比較 (イメージ)



○こちらは、景気の動きとDIの動きを比較したイメージ図です。DIは改善した系列の割合が50%を上回るかどうか判断基準となります。

月々の振れはあるものの、一般的には、景気の谷から山までの景気拡張期にはDI一致指数が50%を上回る期間が多くなり、50%を下回る期間が連続すると後退期の可能性があります。

○なお、景気の拡張期であっても、一時的に50%を下回ることがあり、景気後退期であっても、一時的に50%を上回ることがありますので、単月の動きで、景気が転換したかどうかの判断はできません。

CIとDIの違い

- CI = コンポジット・インデックス
 - コンポジット = 統合
- DI = ディフュージョン・インデックス
 - ディフュージョン = 浸透・波及

| | 作成方法 | 目的 |
|----|--------------------|-----------------|
| CI | 採用系列の動き(変化量)を合成 | 景気変動の大きさや勢いを測定 |
| DI | 採用系列のうち改善した指標の割合算出 | 景気各経済部門への波及度を測定 |

○ここまでのことを簡単にまとめます。

○CIとDIはそれぞれ、測定する目的が異なります。

○景気は様々な経済活動によって判断を行います。

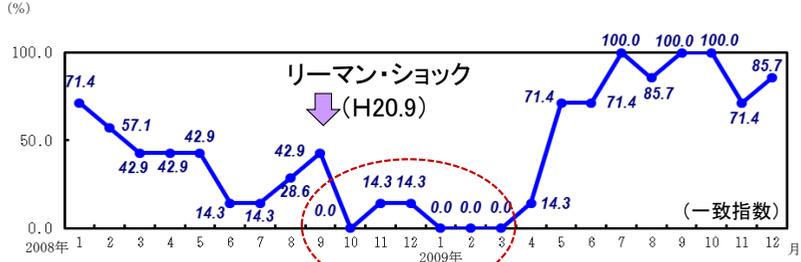
○CIは、採用系列の動き、変化量を合成したもので、景気変動の大きさやテンポ、つまり『量感』を測定することを目的としています。

○一方、DIは、採用系列のうち改善している系列の割合で、景気各経済分野への波及度合いを測定することを目的としており、景気は拡張局面なのか後退局面なのかといった景気方向性と各経済分野への波及を示します。

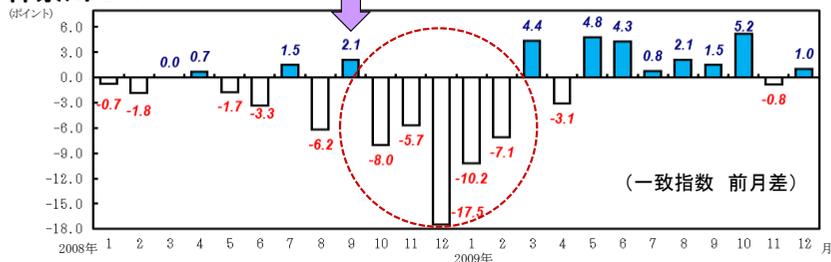
DIは、景気の拡張がどれだけ多くの経済活動の分野に浸透していったかを示す指標であり、景気変動の強さや景気水準を表すものではないことに注意してください。

KDI と神奈川CI の比較 (H20~H21)

KDI



神奈川CI



○CIとDIの違いについて、もう少し具体的に見てみます。

○この2つのグラフは、平成20年から21年、つまり、2008年～2009年にかけての、KDIと神奈川CIの一致指数の動きを比較したものです。

○2008年9月はリーマンショックが起きた月で、その後世界的な大不況になった時期です。

KDIの動きをみますと、2008年10月以降14.3%や0%が続いています。これは一致指数の7つの指標の中でプラスが1つしかなかったり、すべてマイナスだったことを表します。

しかし、「どの分野が」どれくらい悪いのか、各月の違いについてはよく分かりません。

つまり、「0」より下がありません。

○一方、その下の神奈川CIは、神奈川CI一致指数の前月差をグラフにしたものですが、2008年10月から2009年2月にかけて大きく落ち込んでおり、特に12月の落ち込みが大きくなっています。

(5月以降の動きをみると、KDIは、5月・6月は71.4%ですが、7月以降は71.4%から100.0%と、より多くの分野に上向きの景気の影響が及んでいっていることがわかります。神奈川CIは上昇が多くなっています。)

○このように、神奈川CIは景気の変動の大きさや勢いを示しますので、どれくらいの分野に景気の動きが波及しているかを示すKDIと併せて利用することにより、景気の動向をより把握しやすくなります。



景気基準日付（景気転換点）

- いわゆる景気の山・谷
- 支出、生産、収入など主要経済活動の中心的な転換点
- 局面判断や各循環における経済活動の比較のために設定
- 全国の景気基準日付⇒内閣府が設定
- 神奈川県も独自に設定

○次に、景気基準日付について説明します。

景気基準日付とは、いわゆる景気の山・谷を難しく言ったもので、景気の転換点とされています。

景気転換点は、主要経済活動(需要、供給、所得)の中心的な転換点と位置づけられ、景気循環の局面判断(拡張か後退か)や第1～16の各循環における経済活動の比較などのために設定されます。

○全国の景気基準日付は内閣府が設定しており、神奈川県でも、独自に神奈川県の景気基準日付を設定しています。

神奈川県の景気基準日付については、神奈川県景気動向指数月報速報の13ページに掲載されていますので、興味のある方は神奈川県HPをご覧ください。

季節調整ってなに？

- 統計データはそのままの数値を使うと、景気の動きが正しく反映されないことがある
- 天候や気温などの自然要因や、ボーナス、決算月、夏休みなどの社会的制度・慣習による要因。⇒季節変動
- この季節変動を除去して数値をならすためのもの

○次に、季節調整について説明します。

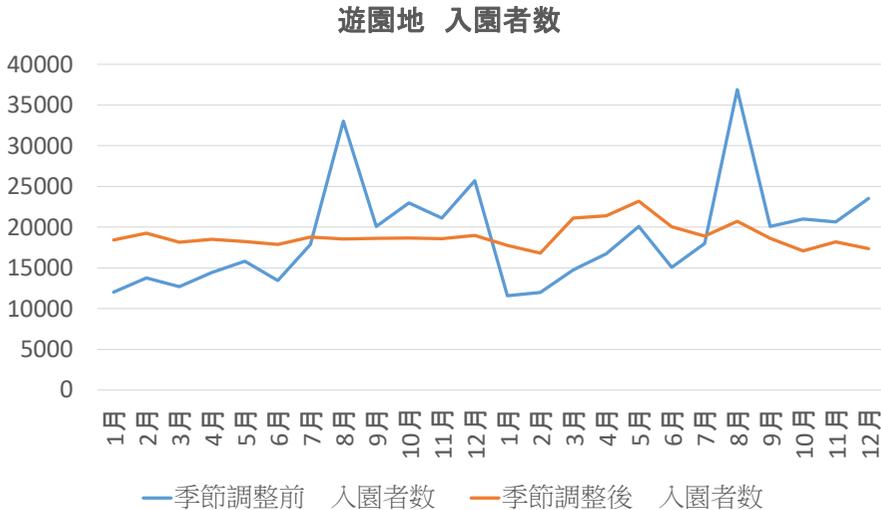
○各採用系列は統計データそのままの数値を使用してしまうと、景気の動きが正しく反映されないことがあります。

○天候や気温などの自然要因や、ボーナス、決算月、夏休みなどの社会的制度・慣習による要因を季節変動と呼びます。

○簡単に言うと「毎年決まった時期に起こる動き」のことです。これを加工して現状の数値を評価したいときに使うのが季節調整法です。

○景気動向指数の算出においては景気変動を適切に捉えるために、個別系列において季節調整が用いられることがあります。

季節調整の効果



○ここで、季節調整をする前のグラフと季節調整後のグラフを見比べてみます。

ある遊園地の入園者数をグラフにしたものです。青色の折れ線は、季節調整をする前のもとの数値をそのままグラフ化しました。オレンジ色の折れ線は季節調整した後のものです。

○最初に青色の折れ線グラフをみてみます。青色の折れ線グラフは季節調整前のもので、大きく凹凸があるのが分かります。

これは夏休みにより入園者数が増加したという、毎年同じ動きを加味したものです。

○一方、オレンジ色の季節調整後のグラフはなめらかであるのが分かります。

このグラフは夏休みの影響を取り除いたグラフです。入園者数が最も多い月は夏の8月ではなく、5月ということになります。

○このように、季節調整には、毎年起こる変動の影に隠れた別の動きを、赤裸々にするという効果があります。



県景気動向指数の公表

- 神奈川県景気動向指数（速報）
 - 毎月月末に2か月前分を公表
- ウェブサイト
 - <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/x6z/tc20/keiki/top.html>
- 参考：全国の景気動向指数（内閣府）
 - https://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/menu_di.html

○神奈川県では、毎月月末に公表している速報を神奈川県ウェブサイトに掲載していますので、ぜひご覧ください。

参考

○ 主な経済レポートなど

● 神奈川県内分

- ・ 神奈川県金融経済概況/企業短期経済観測調査結果（日銀横浜支店）
<https://www3.boj.or.jp/yokohama/shiryou/tankan.html>
- ・ 県内経済情勢報告/法人企業景気予測調査結果（横浜財務事務所）
<https://lfb.mof.go.jp/kantou/yokohama/keizai/index.htm>

● 全国分

- ・ 月例経済報告（内閣府）
<https://www5.cao.go.jp/keizai3/getsurei/getsurei-index.html>
- ・ 経済・物価情勢の展望（日本銀行）
<https://www.boj.or.jp/mopo/outlook/index.htm/>

○ 景気動向指数の利用の手引（内閣府）

<https://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/di3.html>

○最後に、景気の状態を把握する上で、参考になるウェブサイトを紹介します。

神奈川県景気動向指数のほかにも、代表的な経済レポートなどが掲載されていますので、ぜひご覧ください。